問う　代表質問（要旨）

令和8年度施政方針ならびに教育施策推進の考え方について

自由民主党昭島市議団
木﨑　親一　議員

質問　データセンターやマンションの建設など、大きく変容する「ふるさと昭島」に対する市長の所見は。

市長　まちづくりの理念である人間尊重、環境との共生を中心に捉え、全ての市民が「昭島大好き」と言える「ふるさと昭島」の実現へ向け、まい進していく。

質問　イーストテラス・サブスリーにおける今後の交流機会の創出について、事業展開は。

市長　今後も交流の輪が広がるよう、ワクワク楽しいイベントを市民とともに創出していく。

質問　西部地域における総合施設について、整備を進めることに至った経緯は。

市長　暑さ対策としての屋内プール需要や市内公共施設の配置状況等、総合的に検証し着手することとした。

質問　公共施設等総合管理計画を見直す時期を迎えるが、現時点における基本的な姿勢は。

市長　サービスの維持・向上及び安全性の確保とともに、保有量の適正化に向け、再整備等の機会を捉え多機能化や複合化等を前提とした面積縮減に取り組む。

質問　社会環境が大きく変化する中、行政DXの推進と市職員の育成・確保が今後の行財政運営で重要と考える。所見は。

市長　時代の変化に柔軟に対応し、効果的・効率的な行財政運営及び機動的な組織体制の確立と、人財の確保・育成に資する取り組みを継続していく。

質問　水道料金・下水道使用料減免事業について、費用対効果が高く物価高騰対策として効果的な事業であることを市民へ周知しては。

市長　市民への周知は重要な視点と考えており、実施に向けて検討していく。

質問　地域コミュニティの核である自治会の加入率が低下する中、災害時における共助の仕組みの構築に向けた展望は。

市長　防災士資格取得費補助事業を通じ、自主防災組織における防災力の充実・強化を図るなど、新たな地域コミュニティの醸成と地域の防災力向上への取り組みにつなげていく。

質問　南文化公園の整備に当たっては、市民が計画段階から参画したが、新畑公園の整備において特徴的な取り組みは。

市長　ワークショップで意見の多かったボール遊び場を採用した。整備後の運営は、子ども中心の協議会を立ち上げ、市民の声を生かしていく。

質問　令和8年実施のまちづくり企業サミットの、テーマや方向性の検討状況は。

市長　人も企業も元気で持続可能なまちづくりにつながる共通テーマの検討を進めている。

質問　今後の児童・生徒数の動向を見据えた学校施設の在り方について、考えは。

教育長　中長期的な視点を踏まえた計画のもと、確固たる財源の確保と財政負担の平準化にも配意する中、更新課題に対応していく。

質問　持続可能な施設運営など将来を見据えた生涯学習の振興に向けて、社会教育施設やスポーツ施設の在り方についての考えは。

教育長　改修や修繕を計画的に進める中、将来的には建て替えによる更新や利用目的の見直しを含め、適切な維持・管理に努めていく。

令和8年度施政方針と教育施策推進の考え方について

公明党昭島市議団
吉野　智之　議員

質問　次代を担う若い世代への平和教育について、今後の具体的な施策は。

市長　平和首長会議等と連携し、引き続き若者を含む多くの方の心に響く平和事業の実施に努めていく。

質問　西部地域の新たな総合施設整備について、西部地域らしさを形にする具体的なプロセスは。

市長　屋内プール等を含め、多機能化を前提に西部地域の主要な役割を担う施設となるよう、地域の意見を聞きながら整備を進めていく。

質問　物価高騰対策について、都公式アプリ等との連携により必要な方に届く支援を行うべき。考えは。

市長　都公式アプリを含めたデジタル技術を積極的に活用し、より効果的な施策を展開していく。

質問　インクルーシブ遊具の設置は、障害の有無にかかわらず共に遊び、共に育つ社会を象徴する取り組みである。今後の整備方針は。

市長　令和7年12月に開園した南文化公園に設置し、利用者に好評であることから、今後も設置について検討していく。

質問　今後の可燃ごみ処理について、広域連携も含めた検討状況と方向性は。

市長　自区内処理の原則に立ちつつ、処理手法の方針等については一定の進捗を見ており、慎重に検討を続けている。

質問　災害時における温かい食事の提供は、被災者の心身の回復に大きな役割を持つ。民間事業者との連携など、新たな支援体制を構築する考えは。

市長　国の災害対応車両登録制度の活用方法や近隣のキッチンカーの営業状況等も確認する中で、どのような対応が可能となるか引き続き検討していく。

質問　障害者相談窓口の充実について、相談体制の専門性向上やワンストップ化など、具体的な強化策は。

市長　相談内容の複雑化・多様化に対応するため、8年度から基幹相談支援センター機能の構築に取り組む中で、更なる充実に努めていく。

質問　多文化共生社会の推進について、異文化を知る機会の創出や日本語教育支援の充実を図っていくべき。考えは。

市長　引き続き様々な機会を捉え、外国人をはじめとする異なる文化や習慣を持つ方々との交流機会の創出に努めていく。

質問　Aバスルートの延伸が実施されるが、今後の路線バスの定期運行継続の厳しさを考慮すると、AIオンデマンド交通の導入を検討すべき。考えは。

市長　国や他自治体の動向を注視し、運用経費等の課題を整理しながら、引き続き地域公共交通の充実に努めていく。

質問　コミュニティ・スクールの充実について、今後の考えは。

教育長　地域と共にある学校づくりを目指し、コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的な推進を図っていく。

質問　市民が一流の文化芸術に触れる機会の創出について、今後の展開は。

教育長　子ども国際交流音楽祭昭島コンサート等、引き続き質の高い文化芸術に触れる機会の提供に努めていく。

1面下段より

業について、①市民の意見等を反映する取り組みは。②説明会など対面での対話も実施すべきだが、考えは。

答弁　①市民意識調査や小中学校でのアンケートを踏まえ、策定していく。②ワークショップ等を実施する中、最終案を整えていく。

質問　低所得者等エアコン設置緊急支援補助金の対象を、高齢者や障害者、ひとり親世帯にも拡充すべき。

答弁　今夏の暑さ対策として実施される都の広域的な取り組みであり、都補助のスキームに合わせ展開していく。

質問　市全体の4倍の二酸化炭素を排出するGLP昭島プロジェクトのデータセンターについて、事業者からの温室効果ガス削減アクションプランの提出状況は。

答弁　都へも同様の計画を提出予定であり、その進捗を含め早期の提出を求めているところである。

質問　まちづくり条例について、①住民のメリットは。②住民が主人公のより良い条例をつくるべき。③行政罰を科す行政処分型とすべき。④市民の権利規定を明確にすべき。⑤開発の自主基準の内容は条例で義務付けるべき。⑥制定に向けた今後の市民参画の考えは。

答弁　①協働によるまちづくりが推進される。②同じ考えである。③④本条例の目的を果たすために必ずしも必要とは考えていない。⑤現指導要綱を基本に要領を定める。⑥市民の代表の議員に審議してもらうため、議案として提出している。

質問　貸付型奨学金について、令和2年度以降の申し込みが全くない状況だが、今後の考えは。

答弁　社会情勢などを踏まえ、奨学金の在り方について見直しを検討していく。

質問　国民健康保険の保険料が都内完全統一化となれば、協会けんぽの約4倍にもなりかねない。見解は。

答弁　今後も制度の根本的な検討について、国に対し市長会を通じ要請していく。

都民ファーストの会・立憲民主党昭島市議団

質問　ホームページシステム使用料がおよそ2倍に増額しているが、内訳は。

答弁　AIサイト内検索の費用をはじめ、ソフトウェア保守やサーバーインフラ等の費用を計上している。

質問　ふるさと納税による市税の減収が顕著である。ガバメントクラウドファンディングの今後の展開は。

答弁　新幹線0系車両の改修に引き続き、市の魅力発信につながる事業を検討していきたい。

質問　都より、育休中であっても自治体の判断で学童クラブの利用対象とすることが可能である旨の通知が示されたが、考えは。

答弁　各市の状況等を見ながら、今後、検討していく。

質問　リユース食器について、利用制限等が懸念されていたが、今後の方針は。

答弁　令和6・7年度は予算の流用等により対応していたが、8年度は予算を増

3面下段へ続く